

あゆみ通信

VOL. 150

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

親鸞のことば

変えがたい

本性への悲しみ

悪性さらにやめがたし

こころは蛇蝎のごとくなり

修善も雑毒なるゆえに

虚仮の行とぞなづけたる

(正像末和讃)

「悪性」とは悪い本性のことです。人間の悪い本性は全く変わるものではありません。それは蛇や蠍のようなもの。だからどんな善い行いをしていても煩惱の毒が混ざっているのが偽りの行いと言うのです。そう親鸞は詠んでいます。「こんなに私があなたのためにしているのに」と言っていて、相手を責める。そのような私たちの在り方が思い起こされます。

当たり前有り難

聞法会の帰りで、門徒仲間との話。

「今日の晩御飯どうするの？」
「近鉄の下で買って帰ろうか」
「それにしても、毎日のご飯の段取りがこない大変やとは思わなかったわ」

「同感や」
「嫁がいる時は、何も考えなかったけれど、居なくなって、いざ自分でやってみたら、いかに毎日大変か、ようわかったわ」
「本当やな。お互いさまやなあ」
「(嫁が亡くなってから) 気づいても遅いけどなあ」

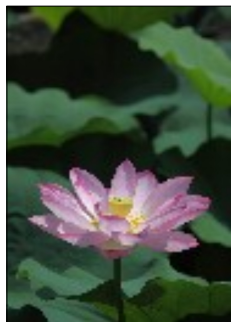
何も考えずに、当たり前だと思っていたことが、いかに有り難いかを、感じた言葉だった。

小生も、二回目の圧迫骨折になった嫁の安静期間に、炊事、洗濯、掃除やごみ捨て等の家事をひきうけたものの、年齢のせいもあり、忘れることが多く、ベッドから再三にわたり嫁の叱咤が飛ぶ。

これまですべてを当たり前として任せてきた罪滅ぼしにやっていたので、門徒仲間と同じ思いをしている。

「当たり前は、有り難し」を痛感できるのも、仏法の教えをいただいたおかげさまでである。聞法がいかに大事であるかを、あらためて感じている。(本)

お彼岸のころ



お彼岸の時期になると、お墓やお手次のお寺にお参りする姿が多く見られます。お彼岸は、一般的には、ご先祖の供養をする仏事と考

えられていますが、本来は、自分自身の仏道精進の意味を持つ行事です。

真宗において、「彼岸」とは「阿弥陀仏の浄土」を指します。浄土は、私たちが還っていく世界であると同時に、迷いの世界である「此岸」に生きる私たちの在り方を照らし、私自身の生き方を問いかけてくる世界です。

お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶとともに、あらためて自らへの問いかけに耳をかたむけ、自分の生活を振り返る大事な時なのです。(東本願寺「お彼岸」より)

今後の仏事日程

○あゆみの会・門徒会 合同研修会

日時 9月2日(木) 13:30
会場 光照寺(天王寺区上汐)
講題 患者になりて往生す
一生きづらさを生きる力
講師 武宮 信勝先生
(真宗大谷派 天満別院輪番)

○第2組聞法会 ～共に学ぶ正信偈～

日時 9月27日(月) 14:00
会場 佛足寺(天王寺区北河堀町)
講師 新田 修巳先生
(平野区 正業寺)

参加費 500円

○あゆみの会総会

日時 12月12日(日) 13:30
会場 即應寺(阿倍野区阪南町)
内容 議案審議(事業報告、事

業計画、会計報告、予算案など)、記念法話

講師 藤井 善隆先生
(即應寺 前住職)

なお、コロナウイルス感染者拡大により緊急事態宣言も出ていますので、日程については変わる場合があります。

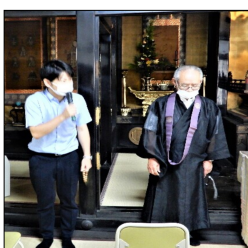
第2組聞法会 開催

2021年7月24日(土) 午後2時から、



天王寺区の宗恩寺(池田英二郎住職)をお借りして、コロナウイルス感染拡大の隙間を縫って、マスク着用、消毒、喚起を徹底して、ソーシャルディスタンスの中で久しぶりの第2組聞法会「共に学ぶ正信偈」が、開催され、折からの35度を超える中を組内の住職や寺族と門徒や推進員28名が参加して開催されました。

最初に、池田住職による勤行の後、開会を墨林浩組長(光照寺)が行い、また、天王寺区紹隆寺(喜左上恵子住職)に入られた喜左上信証氏の披露がありました。講師はお馴染みの新田修巳先生(平野区正業寺)をお招きして。「正信偈」の天親菩薩の段「天親菩薩造論説 帰命無碍光如来 依修多羅顯真実光闡横超大誓願」について、学びました。(法話要約は別項で)



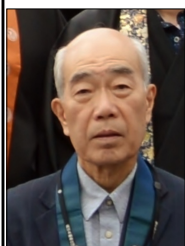
生(平野区正業寺)をお招きして。「正信偈」の天親菩薩の段「天親菩薩造論説 帰命無碍光如来 依修多羅顯真実光闡横超大誓願」について、学びました。(法話要約は別項で)

生(平野区正業寺)をお招きして。「正信偈」の天親菩薩の段「天親菩薩造論説 帰命無碍光如来 依修多羅顯真実光闡横超大誓願」について、学びました。(法話要約は別項で)

生(平野区正業寺)をお招きして。「正信偈」の天親菩薩の段「天親菩薩造論説 帰命無碍光如来 依修多羅顯真実光闡横超大誓願」について、学びました。(法話要約は別項で)

第2組聞法会報告 「共に学ぶ正信偈」

細川 克彦(佛足寺)



新田先生は「正信偈」の「天親菩薩の段」「天親菩薩造論説 帰命無碍光如来 依修多羅顯真実光闡横超誓願」の中の「修多羅に依って真実を顕して」の所を中心に話された。

初めに第2組聞法会の案内文にある「信のうへは、一人居てよるこぶ法なり」(蓮如上人御一代記聞書)について、その文の前におかれている「同行の前にては、喜ぶなり。これ、名聞なり」を引かれ、自分は分かったという思いに対して、それは本当に出会っていないのではないかと。むしろ、仏法はいかに深いか、底を極めることが出来ないと言われることが本当ではないかと、かつてある先生から言われたと話された。

また、外山滋比古氏(1923-2020、英文学者・評論家・お茶



の水女子大学名誉教授)の「思考の整理学」にある「どんなに多くのものを学んでも、無限と言えるほど未知のものが残っている。それが真実に触れる大事な一点である」と言う言葉を紹介され、そして、経典は終わりのない道を歩んでいくことのできる私に育ててくださる役割を果たすと話された。

休憩の後、会津八一の短歌「天地に 我一人いて 立つとき この寂しさを 君は微笑む」を引かれ、どうしようもない孤独を感じることがあるが、名号は一人で称える時、本当に名号らしきがあるなあと、最近しみじみ感じると。

また、親鸞聖人の御製作にな



る「弥陀如来名号徳」の終わりにあるお言葉「南無不可思議光仏」にカナが「光仏はキョウなりと知るべし」とふってある。「キョウ」とは「経」である。つまり、光は経典を表す。経典は私をはぐくみ育ててくださる。

曇鸞

大師は「聞光力」と言っておられる。光



を聞くことによって、生きる力をいただく。経典は、私が病んでいくこともでき、死んでいくこともできる力を下さる。そういう働きとして「聞光力」と言われる。どんな辛い時も、また、嬉しい時も常に寄り添ってくださる名号が私を支えて下さることは何ものにも代えがたい大きな喜びであり、どんな状態であっても阿弥陀仏と共なるいのちを生きさせてくださるところに、一人で立ち返っていけると、力強く話された。終わり

別院だより 御輪番(大阪教務所長)が交代されました



2019年7月以来2年間勤められた大町慶華氏(能登教区第2組専修寺住職)が、6月30日付の真宗大谷派の人事で退職され、後任には禿信敬氏(本山企画調整局長)が着任されました。

当面は教区内で行われている所長巡回で(第2組では8/27)住職や寺族、門徒会役員やあゆみの会会長がお目にかかることになるが、コロナウイルス感染の終息を待って、今後の難波別院仏事でお目に罹れることでしょう。

お知らせ

例年9月に開催していた第2組朋友会との合同研修会は、コロナ感染拡大により残念ですが中止させていただきます。ご容赦ください。

絶対他力の大道 清沢満之師(林曉宇先生)の

第1節

「自分」とはいったい何でしょうか。

私共のはかり知ることのできない不可思議な力にはからわれて、今ここにこうして生かされているもの、これがすなわち「自分」であります。

ただ不可思議な力におまかせして生きている身であります。死も生も、もはや私共の心を労すべきことではありません。

既に生死を打ちまかせた身であります。追放せられるもよいではありませんか。牢獄に入れられるもよいではありませんか。ののしられるも、あなどられるも、辱かしめられるも、何ひとつ私共の心をわずらわすべきことではありません。

私共はただ、如来が今お与えくださっているものを喜んでいただき、そこから新しい生活をうみだしてゆこうではありませんか。(続く) ・テ

【事務局から】

紹介の清沢満之師「絶対他力の大道」は、真宗門徒にとってバイブルの様なものであるが、大変難しく、少しでもわかりやすく読めるとっかかりを探していたら、即應寺の法座で、藤井善隆前住が紹介してくださいました。

翻訳された林曉宇先生は、曉鳥敏師のお弟子さんで、ゆかりの東京教区の下善寺(百々海真住職)が、曉宇会の事務局をされ、訳本を取り扱っておられて、入手することが出来ました。一助になればと、皆さんにご紹介することとします。